琵琶湖定点定期観測結果速報(令和6年2月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和6年2月19日

調査地点 彦根市~高島市安曇川町に至る5地点

(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町

滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査結果

平均値 ・・・ 5地点の平均値

平年値・・・ 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年~2020年(平成3年~

令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2014年~2023年(平成26年~令和5年)の同時期調査の平均値

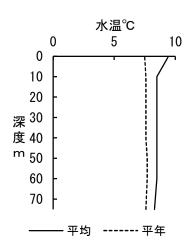
1. 透明度 2月平均値 5.8m

平年値

6.8m

2. 湖水温 (°C)

 深度(m)	2月平均値	平年値	平年差
/// (III/		1 7 12	(平均値-平年値)
0. 5	9. 4	7. 5	+1.9
10	8. 5	7. 6	+0.9
20	8. 5	7. 6	+0.9
30	8. 5	7. 6	+0.9
40	8. 5	7. 6	+0.9
50	8. 5	7. 7	+0.8
60	8. 5	7. 7	+0.8
75	8. 3	7. 6	+0.7



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差 (平均値-平年値)
1月下旬	8. 0	7. 1	+0. 9
2月上旬	7. 7	6.8	+0. 9
2月中旬	9. 2	6. 9	+2. 3

4. プランクトン沈殿量(ml/m³)

水層(m)	2月平均値	平年値	平年差 (平均値-平年値)
0~10	6. 5	4. 3	+2. 2
10~20	2. 3	1.8	+0. 5
20~40	2. 0	1.6	+0. 4
40 ~ 75	0. 7	1.1	-0.4

(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

〇プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンについては、地点1、2、4、5で $Volvox\ aureus$ (ボルボックス:緑藻)が細胞数で最も多く見られたほか、地点2、3では $Asterionella\ formosa$ (ホシガタケイソウ:珪藻)が細胞数で多く認められたが、 $Micrasterias\ hardyi$ (ミクラステリアス:緑藻)も量的には全ての地点で比較的多く認められた。

動物プランクトンについては、地点1ではSynchaeta sp.(ドロワムシ: ワムシ類)が、地点 $2\sim5$ では Eodiaptomus japonicus(ヤマトヒゲナガケンミジンコ: カイアシ類) のものと思われるノープリウス期 幼生が個体数で最も多く認められた。



Volvox aureus



Asterionella formosa



Micrasterias hardyi



Synchaeta sp.



ノープリウス期幼生

6. DO (溶存酸素濃度: mg/L) 多項目水質計による測定値。ただし平年値(参考値)はウインクラー法による測定値。

深度(m)	2月平均値		平年値(参考値)		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0. 5	11. 1	97. 1	11.0	96. 4	0. 1	(+0.7)
10	10. 7	91. 2	10. 9	95. 5	-0. 2	(-4. 3)
20	10.6	90. 1	10. 7	93.8	-0. 1	(-3. 7)
30	10. 4	89. 0	10. 7	93. 5	-0. 3	(-4. 5)
75	5. 1	43. 4	9. 7	83. 7	-4. 6	(-40. 3)